

Shine!

津幡南中学校長 田中 宏志
2年学年主任 村上 直哉

高校訪問で多くのこと感じてきました！

10月10日（木）にキャリア教育の一環として、高校訪問を行いました。学校では、学校説明を聞き、校舎内を見学させて頂きました。テスト中の学校もいくつかあり、静寂の中で廊下から真剣に取り組む高校生の様子を観察することができました。また、テスト返しをしている場面もあり、問題を見せてくれる場面もあり、文字の細かさと問題量の多さに圧倒されていました。中学校とは違い、施設・設備も大変充実しており、人工芝の上で体育の授業を行うことを聞き、目を丸くしていました。中には、体育の授業はバスで移動する学校もあったようで、敷地面積の広さやその充実度に驚きの連続でした。ますます、高校生活が楽しみになってきたようです。百聞は一見にしかず、実際に自分の目で見て、感じる事ができたこの経験は、上級学校へのモチベーションをさらに上げてくれたことと思います。将来の進路選択におおいに役立ってほしいと願っています。

<p>県立金沢泉丘高等学校</p> 	<p>圧倒的な環境があることがわかった。まず専門的な知識を持つ先生の人数がとても多く、授業はその先生方によってしっかり考えられた「知の本質に迫る授業」。集団の中にいる「2:6:2」を教えてくれた。それは「自然:他然:不燃」つまり自分でできる人、他人の影響できる人、できない人の割合を表している。泉丘では自然と他然の生徒しかいないそうだ。そして最初は他然の生徒も卒業する頃には自然になっていると言っていた。難関大学への進学率が高い秘訣は、自然の話のように向上心が高い集団であることや、お互いに刺激し合っていることだと知ることができた。受験勉強について聞いてみると、10人中1人が正解する問題を解ける力より、10人中8人が正解する基礎の問題をすべて正解できる力が大切だと教えてくれた。これからはそれを目指して勉強していきたい。宇野樹乃（23）</p>
<p>県立金沢二水高等学校</p> 	<p>金沢二水高校の「自由」さに驚きました。自由と言っても、スマホ・お菓子OK、とか遊びの許容範囲が広がる-などだけではなく、文化祭を自分たちで作り上げることや、基本45分授業の代わりに空いた放課後をどのように過ごすかの選択肢、より多い体験からどのようなことを学ぶのかの選択肢が自由になるということなどが二水高校の人たちの雰囲気から伝わりました。また、保健体育の授業を見学させていただいたが、スポーツは自分で科目を選ぶことができ、テニス・ソフトボール・バレーボール、その他様々なことをできると知って学習する幅が広くて様々な経験ができていいなと思いました。山田 照（21）</p>
<p>県立金沢桜丘高等学校</p> 	<p>中学校と比べてみて、やっぱり勉強量がとても多いんだという印象を強く持ちました。もちろん勉強量だけでなく、授業が7限まであったり、部活動の種類が豊富だったりして、難しそうだけど楽しそうだなと思いました。3年生がやるアイスブレイク（バーベキュー）や2年生がやる北海道修学旅行、8月にある桜高祭などの数多くの特色のある活動がたくさんあり、とても楽しそうだなと思いました。自分的に一番印象に残ったのが、「中学校で何点ぐらいが必要なのか」という質問で、「苦手教科があると大変になると思う」という回答が返ってきたことでした。自分は、「苦手教科があっても他の教科でカバーできる」と思っていたので、この回答にすごく驚かされました。今回言われた言葉をしっかりと身に刻んで、来年の受験に少しずつ備えていこうと思いました。藏野華音（24）</p>
<p>星稜高等学校</p> 	<p>星稜高校は文武両道ができているということです。星稜高校の校訓は、「誠実な心で事に当たる友情の和を広げる厳しさを自ら求める」です。「GROW! SEIRYO」だそうです。そして、コースが3つあり、1つ目は難関大学を目指すAコースでテストがたくさんあります。2つ目はスポーツと勉強を両立しバランスを重視するBコースです。そして3つ目は充実した設備のもと卓越した指導者によりトップアスリートを目指すPコースです。このように、多様なコースがあり個性を尊重できる星稜高校はすごいと思いました。高井颯希（22）</p>

県立金沢西高等学校



たくさんの特徴や魅力などがわかりました。はじめて知ったことは、高校は中学校の4倍学ばないといけないこと、社会や理科には日本史や世界史、物理や生物などたくさん分かれています。西校は特にSDGsやNFTなど様々な取り組みをしていることもわかりました。西校の魅力は、敷地内が広く、お昼では学校の中に食堂があるので生徒たちがいっぱいいるそうです。一番人気は「唐揚げ定食」らしいです。あと、部活は運動部だけで14部あり文化部は12部あります。高校は中学校とぜんぜん違うことがはっきりとわかりました。高校に入るため今のうちに勉強をたくさんしていきたいです。村井悠愛(25)

金沢市立工業高等学校



ものづくりに興味がある生徒や部活動、生徒会活動、ボランティア活動に力を注ぎたい生徒、何事にも意欲的に取り組むことができる生徒を求めている。石川県の他の高校との違いとして建築科や土木科があり、金沢市立の高校は本校だけ。また、地域産業に貢献できる人材育成をしている。男子が86%、女子が14%で男子が多い。就職と進学では就職のほうが多く公務員になる生徒が多くいる。学校行事では、金工祭や相撲大会の全校応援などがあり相撲大会の全校応援が一番盛り上がる。多く取られている資格は、ガス溶接技能、計算技術などがある。様々な大会に出場しており、全国大会まで行くこともある。部活動では、特に相撲が強く全国大会で3位になるぐらいの実力がある。小坂涼太(23)

県立金沢商業高等学校



金沢商業高校では、中学校で学ぶ教科に加えて商業の科目が増え、金商デパートなどという商業の実践をすることができると知り、とても興味が湧きました。また校内は5階建てで、真ん中を囲むようにして教室などが並んでおり、全体が見通せるような作りが中学校と違ってとても魅力を感じました。高校訪問をして、高校の雰囲気や行事のことが詳しく知れたのでとても楽しかったです。水上汐音(22)

金沢学院大附属高等学校



本気で勉強、全力で部活を大切に、色々な成績を残していることを知れました。勉強では、金沢学院ならではの取り組みがありました。例えば、特別進学コースでは、経験豊富な教員が受験指導をし、オーダーメイド指導、香林坊ラモーダ教室での集中学習などの取り組みがありました。そして、総合進学、スポーツ、芸術デザイン、コースでは、スタディサプリや、朝学習、ICTの積極的な活用などの取り組みをしていて、コースごとにも取り組みが違うことを、知れました。部活動では、県高校総体、男子・女子・総合最優秀、3冠を取るなど素晴らしい成績を残していました。金沢学院を見学してみて、すごいなと思ったことがたくさんありました。例えば、体育館や、剣道場、卓球場などにたくさんのエアコンが設置されていて、涼しい環境で部活ができるということです。そして、私が一番すごいと思ったのは、グリーンフィールドがあることです。とても大きくて、体育などでも活用しているそうです。高校訪問を通して金沢学院についていろんなことが知れてよかったです。桶本彩心(21)

県立工業高等学校



工業高校は教室が多く、ほとんどが工業に関係する機械や、プログラミングのときに使うPCなどがたくさんあり工業についてしっかりと考えることができたりして良いなと思いました。そして、工業だけではなく、丸谷焼や加賀友禅などの焼き物や着物などの着色ができることができることを知ることができて良かったです。他にも、購買や自動販売機などもあって楽しく休み時間を過ごしたり、明るそうな先生もたくさんいたので楽しく授業を受けることができそうだなと思いました。工業高校では「知力」「精神力」「体力」の3つをスタンダードにして生活していることを知ることができたり、ものづくりは人づくりということも知ることができたので良かったです。そして、県工で一番盛り上がる行事は「県工祭」で、自分たちで作った物を販売するそうです。谷川蒼太(25)

遊学館高等学校



遊学館の「遊学」には、「故郷を離れ、異国の地で学ぶこと」という意味があることです。また、創立者が学ぶことには運動が必要という考えをもっていたことも「遊」が入っている理由だと言われているそうです。さらに遊学館では土曜日に「遊学講座」と呼ばれる講座があり、そこではけん玉や茶道、ダンスなど様々な体験をすることができることを知りました。また、一人一台iPadが配られ、スタディサプリというアプリを使って勉強をしたり、模試の結果から苦手なところの復習などにも使われていることがわかりました。遊学館にはAEクラスという英語が得意な人を伸ばし、苦手な人にはしっかりと教えるというクラスもあることを初めて知りました。他にも体育祭や学校祭などが盛り上がることや修学旅行は東京と沖縄のどちらに行くかを自分で選択することができるということもわかりました。太田蒼佳(24)